

KSKPコリアボランティア協会ニュース, No.18 (1996.3.7号)

コリアボランティア協会編集部編

発行:大阪 : コリアボランティア協会, 1996.4.29. ; 8p

請求記号:震災-7-z82

※震災関連記事のみテキスト化しています

震災から一年

1994年1月30日、コリアボランティア協会が発足、まもなく1周年という時にあの震災。直後より支援活動を始め、西は淡路島から東は大阪まで、毎週1回以上、現在は週3回、仮設住宅を中心に通い続けています。

震災時までは、介護を中心に地域に密着した活動をしてきましたが、震災によって急激に活動範囲が広がり、同時に介護要請も日々増大、現在月50件以上こなさなければならなくなっています。

多くの民間ボランティア団体が、社会的に意義ある活動や事業をしていこうとしても、財政的限界のため、やむをえず解散せざるをえない所も多く出てきています。コリアボランティア協会も例外ではありません。頼みであったNPO法案も、昨年11月に国会提出されたものの、住専処理問題のため棚上げとなり、何とか3月の上提期間に間に合うよう各方面に呼びかけていますが予断を許さない状況にあります。

この冬、被災地では、神戸だけでも毎日、数名の方々が、必死の支援にもかかわらず、絶望的状況の中でこの世を去って行きました。日常生活の中で介護を必要とする人、震災において支援を必要とする人にとっては一生その生活が続きます。そのためにもボランティア活動を途中で放棄することは人道にも反します。何としても継続すべきなのです。

日本は先進国といわれています。欧米並みにボランティア活動が市民権を得るためには、企業の方々はもちろん、多くの市民の皆さんの協力が不可欠です。

当協会は多くの需要と人材をかかえ、月々約百万円の運営資金が必要です。投入してきた私財も涸渇の危機に瀕しています。

どのような手段でも構いません。皆様からの資金援助を切望して止みません。

(文責・鄭)

ボランティアさんが作るページ

自主運営による老人、障害者への昼食弁当宅配介護

－神戸長田バンバン－

菅原市場近く焼け跡の場所に、プレハブが建っています。昨年7月この外装に、コリボラ協会が、ゴキゲンな絵を描いたのが縁で、週に1度お手伝いに行ってます。口は悪いが、情にもろい原田のカアチャン先頭にスタッフ8名+αでやっています。そのなかで、さとしという青年(20才、体重80kg)も電動車椅子でお弁当配りのボランティアを

しています。ヒョーキンでスケベで町の人気者なのでビックリしました。

私はと言うと、バンバンでは七転八倒、失敗ばかりです。でもこの失敗が、明日のウンチ基いこやしになるのよね～。昔の長田はこうやったと教えてくれたオバアチャン

入れ歯をゴミと一緒にほかし、連れ合いにボロクソに怒られたオジイチャン。

みんな、肌がマシュマロのように柔らかかった。神戸に来て思った。哀しいだけではつらすぎる。楽しいだけでも物足りない。色々あってのこの人生、赤、青、黄、白、黒、色混ぜて今日一日の絵が描かれて行くんだよね。

(太田 テジョン)

(c)1996コリアボランティア協会編集部(デジタル化：神戸大学附属図書館)